



吉原宿

宿場は旅人が休んだり、とまったりするところです。ですから、旅人のとまりやすい山のふもとや街道と街道の交わるところ、また川の近くに発達しました。元吉原宿も、富士川の渡しにありました。

元吉原宿が津波のため、依田橋の方に移ったのは寛永（かえい）16年（今から336年前）です。新しい宿場は、今の依田橋から津田、荒田島のあたりで、中吉原宿と呼ばれていま

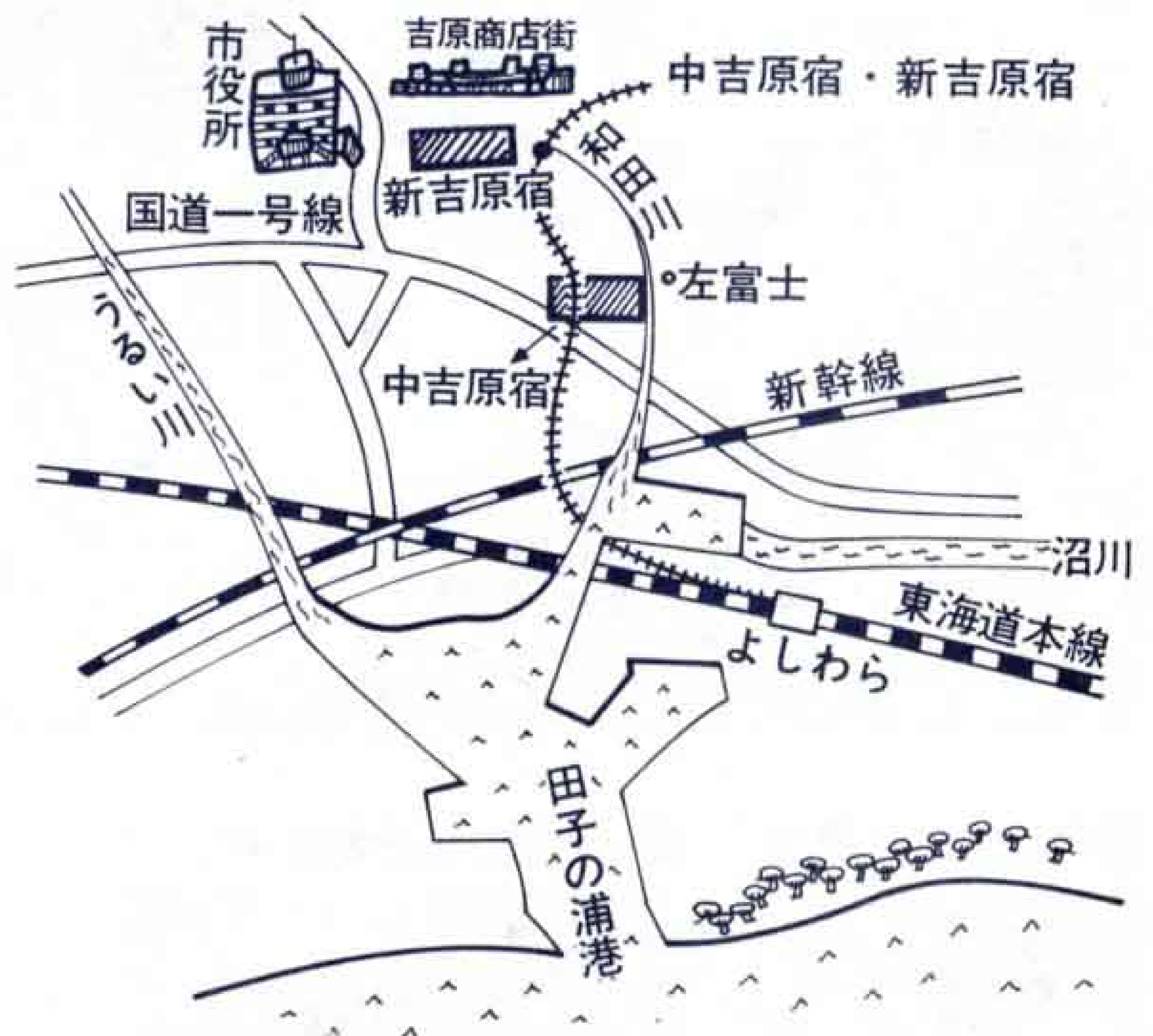
す。
ところが、中吉原宿も宿場ができてから42年目、大津波のためぜんめつしてしまいました。死んだ人は、700人以上もあったそうです。

宿場は、また場所がかわり、こんどは幕府から2500両という大金をかりて、今の吉原本町通りにうつりました。

新吉原宿は、日産自動車の西側から新追町の小うるい川にかかった四軒橋まで1400軒くらいあってはたごのほか茶屋人や荷物をはこぶ伝馬立場などが、街道

にそって帯のように長くのびていました。

幕末のころ新吉原宿には、本陣2軒、脇本陣4軒、はたごが120軒もあって大変にぎやかでした。



=富士第1小=

6年生が交通安全リーダー

秋の全国交通安全運動が9月22日からはじまりましたが、運動の初日富士第1小学校で、交通安全リーダーのワッペン伝達式が行われました。交通安全リーダーは、みんなが交

通事故に合わないよう正しい交通ルールの指導を行っていくもので、6年生全員がリーダーになります。

伝達式では代表者にワッペンとリーダー手帳が渡されました。また、

警察や市役所の交通課のおじさんから、交通事故に合わないようにし、下級生の指導を行ってください。5年生以下の人でもリーダーを見習い、正しい交通ルールを必ず守ってくださいと注意を受けました。

そのあと、リーダーを代表して五十嵐君が、交通事故のニュースが新聞やテレビで報道され、みんなの願いは中々実らない。私達は正しい交通ルールを守り、下級生の模範になり、事故に合わないようにしますと誓いました。

